

令和5年度「品目団体輸出力強化緊急支援事業」報告書

1. 事業実施者名：一般社団法人青果物輸出促進協議会
(会員名：株式会社日本農業)

2. 実施国名(地域名)
ドイツ

3. 背景

“お芋の国・ドイツ”と呼ばれているだけあり、ドイツではさつまいもを含めた芋の種類は大変豊富であり、日常的に食されているものの、その国内産じゃがいも/さつまいもの人気の高さから、EU圏外産のお芋は山芋・長いも以外では見かけない。

山芋、長いもにおいても、食べ方を知っている人は少なく、殆どがアジアショップに置かれているような状況であり、更に日本産さつまいもについては食べ方だけでなく、存在を知らない人も多い。

ドイツにおいて、日本産かんしょの認知を高め新たな需要を獲得するため、消費者を対象としたプロモーション活動を行った。

4. 内容

(1) 実店舗プロモーション(試食会およびオンラインプロモーション)

① 品目名：かんしょ

② 実施期間：

- ・フランクフルト 開催期間：2024年12月21日
- ・ベルリン 開催期間：2025年1月18日ー1月19日
- ・オンライン 実施日：2024年12月4日、2024年12月21日

③ 店舗名：

- ・My Zeil Sakura (フランクフルト)
- ・Tenzan Lab (ベルリン)

④ 概要：

焼き芋試食会実施店へ事前にサンプルを配布し、タイアップ及び定期購入を打診。

タイアップを受け入れてくださった店舗とデザートとして提供するためのメニュー開発を行った上で、店舗の宣伝も兼ねてSNSインフルエンサーへ動画作成の依頼を行い、フランクフルト、ベルリンそれぞれの店舗にて、焼き芋の試食会を実施。

⑤ 成果：

日本産かんしょのドイツにおける認知度は今後向上の余地が大きいと考えられることから、本取組により、従来の少量の取引の倍程度の取引を目指し、試食会及びオンラインプロモーションを行った。その結果、殆どの方が「ドイツのものよりも柔らかい」「甘くておいしい」と回答したが、時折アメリカのさつまいも（恐らくドン・キホーテのもの）の方が甘いという意見や、「(通常の) サツマイモよりも高いお金を払う価値はない」という厳しい意見も見受けられた。

1 本あたりどのくらいの価格が妥当かという質問に対しては、焼き芋のみであれば 3～5€、サイドディッシュやデザートとして他のものと組み合わせたり、調理をする場合には 8～10€という意見が多かった。

ドイツのさつまいもが 1kg・4€前後で販売されている中、日本より輸入したさつまいもは空輸コスト（1kg・11€）を加味すると、最終顧客価格はおおよそ 1kg・20€前後になってしまう。

また、さつまいもから焼き芋に加工した後の最終顧客価格は、1kg・40-50€前後（1 本 5-6€前後）となってしまう。

どんなに美味しく現地のもとの差別化が出来ているとしても、そこまで価格差があると購入が付かないため、既に日本で加工された冷凍焼き芋の冷凍コンテナ輸入が望ましいと考えられる。

費用対効果：

成約目標：65 万円

成約見込額：60 万円（2025 年 2 月末時点）

費用対効果：1.1

5. 活動写真

(1) フランクフルト・My Zeil Sakura での試食会



(2) ベルリン・Tenzan Lab での試食会





(3) オンラインプロモーション

インスタグラムのインフルエンサー及び協業企業のオフィシャルインスタグラムアカウントによるプロモーション

